

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告
 連携機関（日本プラネタリウム協議会会員）からの報告

館名	白井市文化センター プラネタリウム	センター長名	秋本善久
館所在地	〒270-1422 千葉県白井市復1148番地8		
住所	http://www.center.shiroi.chiba.jp/planet/		
目的	JAXA と協力して、宇宙連詩の編纂を希望する地域学校を支援する。		
目標	活動目標 : 学校・宇宙連詩実施の勧誘を行う。(県内プラネタリウム施設ならびに小中学校) 活動目標 : 学校・学級宇宙連詩を担当するプラネタリウム職員と指導教諭との話し合いを行う。 活動目標 : 参加校への支援を行う。		
具体的な取り組み内容 上記の指導目標を達成するために実施された活動の概要を、 準備段階、導入段階、実施段階に分けてご紹介ください。			
時期	取組内容		
準備段階	活動目標 への取り組み 2008 年 2 月 JAXA と JPA は協力して学校・学級宇宙連詩を行うために覚書を取り交わすことに同意する 3 月 当館から、白井市教育委員会に学校・学級宇宙連詩についての文書を作成し、教育長に説明。校長会で学校・学級宇宙連詩の紹介をすることを了承。白井市外で白井のプラネタリウムを利用する学校にも宇宙連詩紹介の文書を配布し勧誘した。 4 月 校長会で学校・学級宇宙連詩について説明し、説明会を行う旨を連絡し、関心のある教諭の出席をお願いした。また、県内外のプラネタリウムへ説明会を白井で実施する連絡をした。		
導入段階	活動目標 への取り組み 5 月 21 日 JAXA と JPA、JAXA と白井市文化センター・プラネタリウムは覚書を取り交わす。 5 月 22 日 参加の意欲を表明された県内外プラネタリウム館の職員と学校の指導教諭を対象に、JAXA の共催を得て、宇宙連詩レクチャを開催した。30 人出席。実施内容は別添 1。2 校が実施に前向きな意思表示があり、松戸市も実施したいとの意思表示があった。 7 月 31 日 5 月の説明会に参加できなかった松戸市の小学校と中学校それぞれ 1 校の担当教諭と松戸のプラネタリウム職員に学校・学級宇宙連詩の説		

	<p>明を行った。</p> <p>その結果、4校が参加の意思表示があり、JAXA宛ての参加申込の支援を実施した。</p>
<p>実施段階</p> <p>10月6日</p> <p>11月6日</p>	<p>指導目標 への取り組み</p> <p>参加校のうち、1校が諸事情で辞退し、3校が実施することになった。ここでは、印西市立原山中学校2学年の支援について記す。</p> <p>原山中学校2学年98人を対象に体育館で「宇宙人としての地球人」の演題で講演。137億光年前に私たちの住む宇宙が生まれ、46億年前に私たちの住む地球が生まれ、私たちは宇宙～星～から生まれ、また宇宙に帰っていく「輪廻」宇宙のお話と、ISSについて建設状況、星出宇宙飛行士の現在の様子や完成した宇宙連詩がどこに保存されるのか解説した。</p> <p>基本的な天体の授業と今夜の星空の解説をした後、国立天文台4D2U制作の4次元宇宙シミュレーター「Mi taka」を使って時空を超え、137億光年先の宇宙の果てまで旅をしたり、プラネタリウム番組「宇宙はじまりの物語」を観覧した。</p>
<p>完成段階</p> <p>2009年</p> <p>2月</p>	<p>指導目標 への取り組み</p> <p>作品を完成させた学校から、JAXAへのデータの受け渡しを実施した。</p>

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告

協力機関担当者からの報告

地域のプラネタリウム 学校・学級宇宙連詩の取り組み

白井市文化センター・プラネタリウム

副主幹 長谷川好世

1. 参加する小中学校への勧誘

公立学校の場合、教育委員会や校長会を通して実践してよいかの伺いをたて、その後、文書によって担当教諭に伝わるのが、正式な勧誘であると思う。実際にこのやり方で行った。しかし、直接担当される先生方の意欲が児童・生徒に伝わる典型的な取り組みである。きっかけがトップダウンであったにせよ、先生方の意欲の向上と共に、子どもたちのやる気度も増す。先生方に合唱に取り組みような、面白さが宇宙連詩にあることを気付かせる、それを、お知らせすれば、参加学校も増えるであろうと思う。参加したすべての子どもの詩がひとつ詩になっていくさまは見事である。

今回、諸事情で参加できなかった学校からは、次に開催するときには参加したい、との希望を受けている。現場の先生の意欲によるところが宇宙連詩は大きい。施設としての働きかけは下記の「2」のみである。

2. 学校・学級支援

宇宙とは...、国際宇宙ステーションとは...、など宇宙連詩を作るにあたっての基本的な宇宙の知識や宇宙に住んでいることを実感させるのが地域のプラネタリウムである。国語科や担当の先生方が指導できない間隙を縫い、児童生徒の問いかけに応え、かといって理料的な「宇宙」ばかりでなく、自分の住んでいるところがまさに宇宙である！を気付かせる役割が地域のプラネタリウムである。また、場の提供として、少人数校であれば、その連詩をプラネタリウムの星の中で発表することも可能である。

3. 地域のプラネタリウムの宇宙連詩

地域のプラネタリウムの力は宇宙連詩の学校・学級支援ばかりではない。その施設に来館する地域の一般の皆さんを対象に宇宙連詩を創作できたら、日本全国、地域のプラネタリウム担当者の意欲も向上し、学校・学級宇宙連詩と同時進行で行えばきっと相乗効果も生まれるであろう。



10月6日 体育館で学年集会



11月6日 プラネタリウム見学

